

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鳥取県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	羽合町立 羽合西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	66	54	70	58	53	70	2	373	

研究の概要

1. 研究主題

<p>学び合い、ともに高まろうとする子をめざして ～児童の実態に応じた少人数指導を通して～</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>* 2年生～6年生：算数科</p> <p>算数科は系統的に学習を積み重ねていくことが特に求められる教科である。また、学年が進むにつれて個人差が広がり、苦手とする児童が増えるという傾向にある。本校でも同様な実態が見られ、学年の早い時期からきめ細かく指導していくことにより、基礎・基本の定着を図っていこうと考えた。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

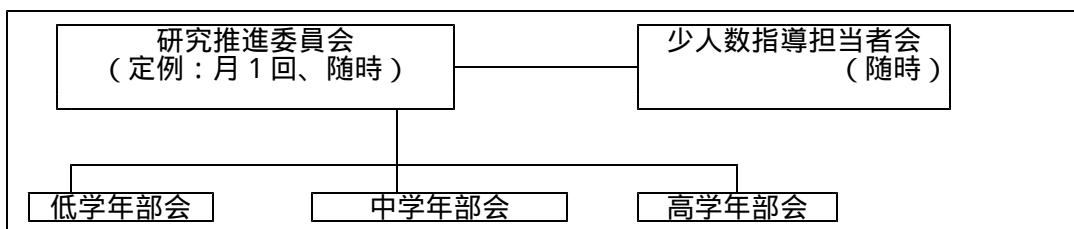
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「学び合い、ともに高め合う子をめざして」 ～児童の実態に応じた少人数指導の工夫～</p> <p>研究の見通し (1) 児童の実態や学習内容に応じて、効果的なグループ編成による少人数指導を行えば、学力が向上するであろう。 (2) 児童が友だちと関わりながら自分の考えを深めていくことにより、学力が向上するであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 児童の実態や単元の内容・目標によって、効果的な指導形態を工夫する。 ・等質グループによる少人数指導・習熟度別グループによる少人数指導、TTによる指導など、工夫する。 ・少人数担当加配教員、級外職員、学級担任、算数科主任による少人数指導を行う。 ・校内研修会や授業研究会を持つ。 (2) 自分の考えを持ち、児童相互の考えを交流し合える場を設定する。 (3) 何でも話せ、互いの考えを認め合える温かい人間関係作りに努める。</p>
--------	---

	<p>テーマ 「学び合い、ともに高め合う子どもをめざして」 ～多様な考えが出し合え、深め合える学習を展開する</p>
--	--

平成 16 年度	<p>～一人学び、友だち同士の学び合いを通して考えを深める。 研究の見通し</p> <p>(1) 15年度の実践をもとに、少人数指導のよさを生かした学習を展開していけば、一人一人の学習意欲が高まり、学力も向上するであろう。</p> <p>(2) 1単位時間のうち、自分や友だちの考えを交流し合う学びの場を必ず設定すれば、さらに考えが深まり、学力が向上していくだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 単元のどこで少人数指導を取り入れれば効果的か、様々な学習のパターンをいろいろ考え実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TTによる指導 少人数指導 ・単元はじめから少人数グループに分けて指導（一斉） ・単元の途中で少人数に分けて <p>(2) 自分なりの考えを持てるような手だてと支援を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題把握の場面の話し合いを重視する。 ・自力解決時の支援のあり方 ・考え方がわるノート作り ・練り上げの時の支援のあり方 ・終了時に時に学習カードやノートに感想を書き、自己評価する。
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>(1) 少人数指導による成果</p> <p>1学期と2学期を比べた場合、単元終了毎のテストでは、全般的に、「表現・処理」の得点の伸びが見られる。「数学的思考方」「知識・理解」では、下位にいた児童の得点の伸びが見られる。</p> <p>児童の意識調査の集計から、少人数による学習への肯定的な意見が多かった。</p> <p>(例)・学習内容がよく分かった ……69.8%、 ・今後も少人数による学習を続けたい ……69.6% ・「発表や質問がしやすくなった」「楽しい」「自分のペースで学習できてよい」などの声が多数聞かれるようになった。 保護者も「意欲的に学習している」と好評であった。</p> <p>(2) 自力解決や友だちとの学び合いを大切にした指導による成果</p> <p>絵や図をかいたり、言葉による表現で自分の考えを説明しようとする児童が増えてきた。</p> <p>反省カードやノートに感想を書くことにより、自分の学習の振り返りができるようになった。</p>
--

2. 今後の課題

<p>少人数指導のよさをさらに生かした指導形態の工夫・改善を図る。</p> <p>児童の実態に応じ、より分かりやすい指導方法の工夫・改善に努める。 (思考を重視した学習展開と考えが分かるノート作り、実態に応じた支援の工夫、発展・補充のための教材の工夫、自己評価の工夫)</p> <p>少人数指導担当者会の定例化</p>
--

学力等把握のための学校としての取組

単位時間毎：学習カードや学習ノートによりその時間でねらう力がついたかどうかを確かめる。
単元終了後：評価テストにより単元でねらう力がついたかどうかを確かめる。
年間：標準学力検査（1～3年生：CRT，4～6年生：NRT）
県診断テスト（国・算）
県基礎学力調査（知識・理解、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力など総合的にとらえた学力）
いずれも1月実施。指導不十分な領域については、年度中に学習を振り返る。また、来年度の指導に役立てる。
鳥取県基礎学力調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 研究授業の公開
(2) 研究の取り組み、子ども達の学習の様子をホームページ公開
(3) 中学校区の教育研究協議会（学習指導部会）での紹介

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 □ 6学級以下 □ 7～12学級
 ■ 13～18学級 □ 19～24学級
 □ 25学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 ■ 一部教科担任制 □ その他
- 【研究教科】 □ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無